

●春の野草を味わう会 9日

定刻に大勢のご参加がありました。集合時刻と場所の連絡方法に差が発生し少し手間取りましたが、少し遅れて開会挨拶が始まりました。予想に反して 27 名ものご参加があり、子どもたちも大はしゃぎで若い声が山に響きました。新緑に負けない元気があふれました。今回は参加者が、自ら野草を摘み取っていただく参加型で取り組みました。ヨモギ、セリ、ナズナ、カラスノエンドウ、スイバ、ワラビ、ドクダミ、ツクシ、ギボウシ、ノイバラ、ハルジオン、ヒメジョオン、ウシハコベ、オオバコなどを摘み取ってきました。それを洗って天ぷらにしました。そのほかヤブカンゾウの酢味噌和え、鯉節和え、ウシハコベの胡麻和えなどに料理が進みました。今回初めて参加された皆さんは、最初なかなか手が伸びませんでしたが、徐々に慣れていただき楽しく草摘みを体験いただきました。何よりも摘み取ったばかりの命溢れる新鮮そのものです。自らの手で作業したものを口にすることなど一般社会では考えられない出来事です。美味しい、美味しい、の連発で、打田で作った米によるご飯も一粒の食べ残しありませんでした。参加された方から入会された人があって、実りの多い取り組みとなりました。

●京都府地域力再生プロジェクト事業報告書提出

2015 年度（平成 27 年）の交付金を受けて、主力三つの取り組みを実行しました。予定では 300 万円の予算でしたが、決算では 250 万円となりました。木津川に竹蛇籠の製作設置を行って「魚の棲みかを作ろう」では、木津川で設置場所の選定からはじめ、静岡県島田市へ竹蛇籠づくりの事前学習に出かけるなどして準備を進め 10 月 17・18 日には約 200 人の参加で編み上げ設置が出来て 12 月に 6 基目も完成させました。二つ目は木津川の植物調査写真集への準備を行い 480 枚の撮影が終わりました。そして三つ目はオオムラサキの観察台の設置と周遊通路の開設です。そのうち高さ約 30m の山登りの通路づくり 200m が笹藪の切り開きで苦労がありましたが、完成出来ました。関わっていただきました皆様の献身的なボランティアで、すごい成果がきづかれました。

●会誌 40 号原稿の集まり低調

会員各位の高齢化が影響しているのか、いささか原稿の集まり状況が心配です。特に仲間の広場への寄稿が弱くなってきています。前号では感想文への協力を強調しましたが、今回は仲間の広場がすごく減少しました。なかなか文章を書くということは苦手だとおっしゃいます。高齢化防止には、頭の運動や活用が協調されています。何よりも文章を書くということが第一であるはずです。原稿を書いてくださいと依頼があって初めて筆が動き始めるのではないのでしょうか。まさに里山の会は頭の衰えをカバーさせるいい機会を提供しているのではないかと思います。次回にはぜひ近況の一筆をお寄せいただきますようお願いいたします。

●田植えと米づくり体験 打田の田圃での計画、今年は中止

昨年の稲刈り作業体験では、次年度の田植えはいよいよ年貢の納め時ですと、田圃の世話をいただいていた山本さんがおっしゃっておられました。間もなく田植え準備が開始されるこの時期、最後の確認をいたしましたところ、とても農作業を継続することはできないと最後通告がされました。打田の田圃は竹藪に覆われた大変厳しい条件を全員で力を合わせて 3 年間田圃づくりに精を出して今日のような田んぼに復旧させて、山本さんの協力で田圃でのコメづくりが続けることが出来てきました。今年度は一挙に放棄できませんが、草刈りは実施いたしますが、来年度には、手放すこととなります。残念ですが致し方ないことになりました。

●会計実務の充実検討の時期に 河川協力団体事業の受注後の処理について

今年は河川協力団体に認定されて、国交省からの委託事業を受けることになる可能性があります。これはこれまで 100% のボランティアの活動ではなくて、しっかりした労務提供として契約することになると考えられます。そのとき非営利活動を行う NPO 団体が作業を受託した場合に、どのように会計処理を行うのか、諸問題が発生すると懸念されます。その時に備えて心構えや対応策を準備しておかなければならないと思わ

れます。事務局会議で話題になりました。

●里山の会の発展方向について 里山の会の役割

事務局会議では、結成 20 年を迎え、里山の会の発展方向の確認をする時期に差し掛かかっているのではないだろうかと思われ提起がされました。各種のイベントは継続で繰り返し開催されているが、改善改革される部署や内容の変化や工夫が少なく、新鮮と魅力に欠ける停滞状況に陥っているのではないのでしょうか。繰り返して開催するのも意味はありますが、その段階からさらに次の目標に向かって進む積極性、発展性、改革などを取り入れ目標や課題を掲げ新しい峰への挑戦なくして前進進歩とは言えないのではないのでしょうか。

「地域との連携」や「共同や協力」を設定すると新しい分野が開け明日への道がひらかれ気付きが始まります。たとえば農園活動を通じて「農園まつり」の開催と躍進を通じてやがて普賢寺まつりへと向かう「地域との連携」への道、また木津川では竹蛇籠の設置、親水公園の実現という新しいフィールドの実現から、「地域との連携」というポイントをもとに「木津川の日」としたり「故郷の川祭り」などの提起をしながらどのように発展していくのかを創出しなければなりません。たとえば、流域全域での「木津川まつり」などへの飛躍を展望すると、従来型からの脱却が図れるのではないだろうか、一度振り返りと合わせ、各位のご意見を頂戴したいものです。ヒントをお待ちしています。

●里山農園 物置の設置 18 日（月） 雨の中ご寄付をいただいた物置を解体して持ち帰り、それを組み立てていつでも運び出せるよう完成出来ています。それぞれ皆さんが苦勞しながら作業を行っていただいた苦心の作品です。里山農園の物入れは青代さんがとりあえずとブルーシートをもって作っていただきましたが、数年が経って、風雪に耐えられないみすばらしい姿にかわりました。これを取り除いて、置き換えてはと意見がありました。4 月 18 日の月曜日午前中に運び上げることになりました。農園の施設充実にお力をお貸してください。

●草内渡しの浜親水公園 第 1 回草刈 4 月中ごろに差し掛かりますと芽吹きがはまり、草たちも一斉に成長を始めます。カラシナ達は早くも満開の花を咲かせます。少し普通の花より早く咲いて種を早く結実させようと燃えているようです。昨年渡しの浜親水公園では種のできる直前でした、カラシナをすべて刈り取りましたら、昨年背丈を超える高さに成長したものがすっかり低くなり、密集して咲いていたものが低くなりまばらになりました。随分と草刈がようになできるようになっています。約 5 時間ほどで三分の一が刈り取れました。同時に川辺の歩道通路の草刈もスムーズに進めることができました。これから毎月刈り取るときっといい魚とり会場に整ってくると期待が膨らみます。

●カスミサンショウウオ 生れる

野村さんの毎週観察記録から。発見して以来毎週観察を続けていただいている野村さんの報告では幼生が生まれ出て元気に泳いでる様子が写真撮影されています。この間、渇水状況になって、卵が浮き上がったり、野鳥からののがれられる対策や共食い防止など、随分と配慮をいただいています。本当にご苦勞様です。貴重な写真資料を期待しています。

●県外研修会のプランが提案されています。

施設見学 知多半島の白土山と街おこし、海上の森（かいしょうのもり）の見学（里山農園について）、木曾三川合流施設（淀川三川合流センターについて）、トヨタ自動車工場の見学（近代工場の見学）、熱田神宮の見学（レクリエーション）などが候補に挙がっています。特に伊勢湾水害の記念館も候補に挙がっています。知多と海上の森（かいしょうのもり）については桜谷先生のご推挙がありました。